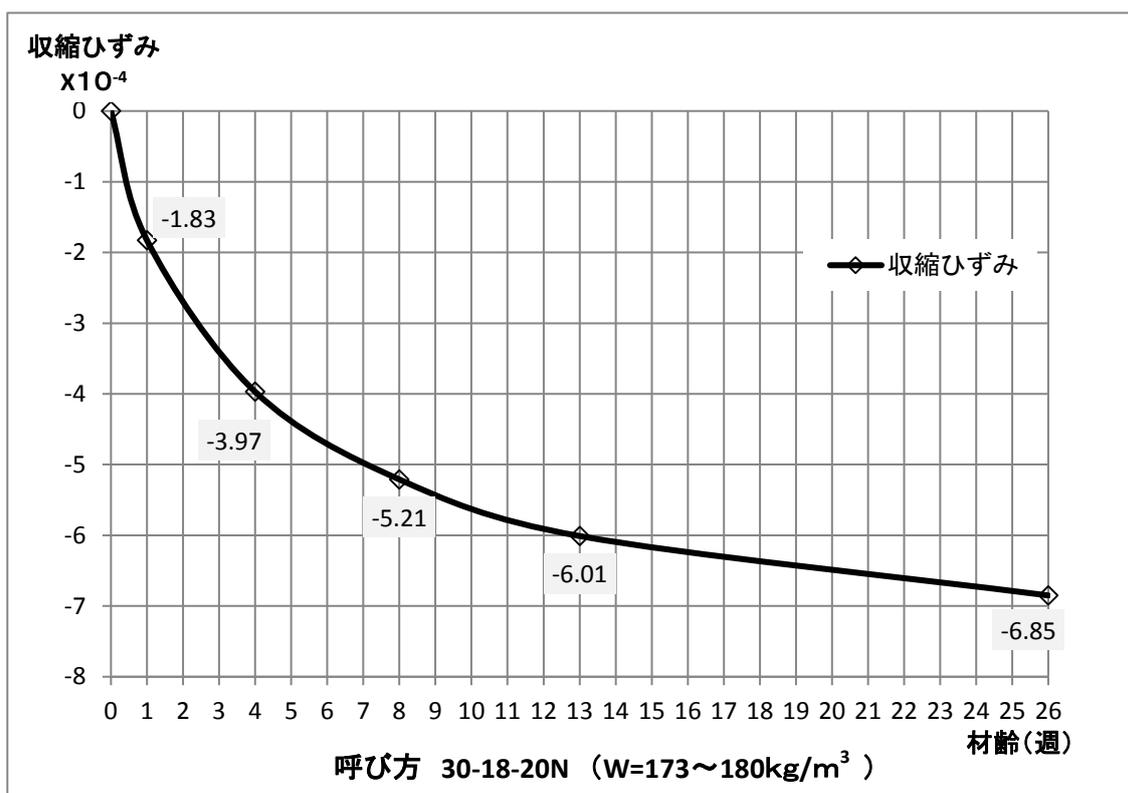


組合員が製造するコンクリートの収縮ひずみについて

コンクリートの収縮ひずみがコンクリートのひび割れに大きな影響を及ぼすことは周知の事実となっています。JASS5では、計画供用期間の級が長期および超長期のコンクリートでは 8×10^{-4} 以下が規定され、コンクリート標準示方書の設計編では、予測式により構造物の照査に用いる収縮ひずみの特性値を算出することになっています。(最大値は 800μ 程度)

そこで、私たちも生コンクリートの製造業者として、自分たちが製造するコンクリートの収縮ひずみを知っておくことは重要と考え、年に1度、全社が集まり、試し練りにより $10 \times 10 \times 40$ cmの供試体作製し、JIS A 1129-2 コンタクトゲージ法によりその収縮ひずみを測定しています。

下表は、平成26年に実施した、組合員5社の平均値のグラフです。



協同組合員5社の乾燥収縮ひずみの平均値

私たちが製造する通常のコンクリートを適正にご使用いただいた場合、コンクリートの乾燥収縮によるひずみは一般に想定される 8×10^{-4} 以下が満足できるものと考えます。なお、各社の個々の値をご要望の場合は、協同組合にご相談ください。

奈良県生コンクリート協同組合 技術委員会